

1月17日に想う

まさに天災は忘れたころにやってくるという格言を思い出すことになりました。新年を迎え、晴れやかな気持ちになっていた矢先の大地震でした。石川県能登半島を中心に、マグネチュード7.6、最大深度7の地震は、余震を繰り返しながら甚大な被害が報告されています。1月1日の夕方からのテレビは「津波警報です」というアナウンサーの大きな声が響き、正月気分はどこかに行ってしまいました。東日本大震災の時には、避難の呼びかけが十分に届かなかつたとして、強い口調で伝えることに改めたそうです。過去の教訓はこんなところにも活かされていることを知りました。奈良県には津波こそ来ませんが、地震や水害の被害は想定されています。いざというときにどう伝えるか、今回の地震で考えさせられました。

そして、1月2日には航空機の事故が起きました。素人目にも到底考えられないような事故で、映し出された映像は映画のワンシーンを見ているようでした。どうやら複数の人為的ミスが重なったことが事故の原因のようです。公共交通機関は人為的ミスを無くすために、様々な約束事が決められているはずなのに、ミスが重なると大事故につながることを再認識させられました。しかも、海上保安庁の航空機は大地震の能登半島に支援物資を運ぶところだったと報道されていました。本当に痛ましい事故です。

今日、1月17日は阪神淡路大震災が発生した日で、29年が過ぎようとしています。3月11日には東

日本大震災から13年になり、これまでの教訓が活かせるかももう一度点検したいと思いました。私は神戸や東北に足を運び、その時の状況を聞く機会は何度かありましたが、共通していることは「心の支え」は人のつながりであるということです。困ったときには支えあい、また話を聞いてもらうだけでもありがたかったと、そんなことが生きる勇気になると教えてもらいました。

始業式でもお話ししましたが、当たり前のように学校生活を送れていることに感謝して、いろんなことに頑張りたいと思います。そして話を聞くだけでも支えになるのなら、困った人に寄り添える生き方をしたいなと思います。

1年の計は元旦にあり

生活をしていると、いろんな節目があります。大きな節目では「式」を挙げることが多いです。入学式や卒業式、入社式、結婚式などいろいろあります。物事は目標を立てて、それに向かって努力をすることで目標が達成されることは誰もがわかっていることです。目標を決めるとき、いろいろな節目で決めておくとも目標が明確になりやすいです。その点からも新年を迎える元旦（1月1日）は、この1年の目標を決めるのに最適です。みなさんはどんな目標を決めましたか。

簡単なことはつまらないし、難しすぎることは心が折れてしまいます。ちょうどよい難しさは人によって違います。なので目標も人によって違っていいのです。「無理」と言わずに、自分にとって難しいことに立ち向かえる目標を設定してほしいと思っています。